

1. 建物概要

建物名称	(仮称)恵田原・片山22街区物流センター新築工事	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点		取組み度		評価	
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.8	/5	    		ふつつ 	
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5	    		がんばろう 	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	4.0	/5	    		よい 	
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	    		がんばろう 	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

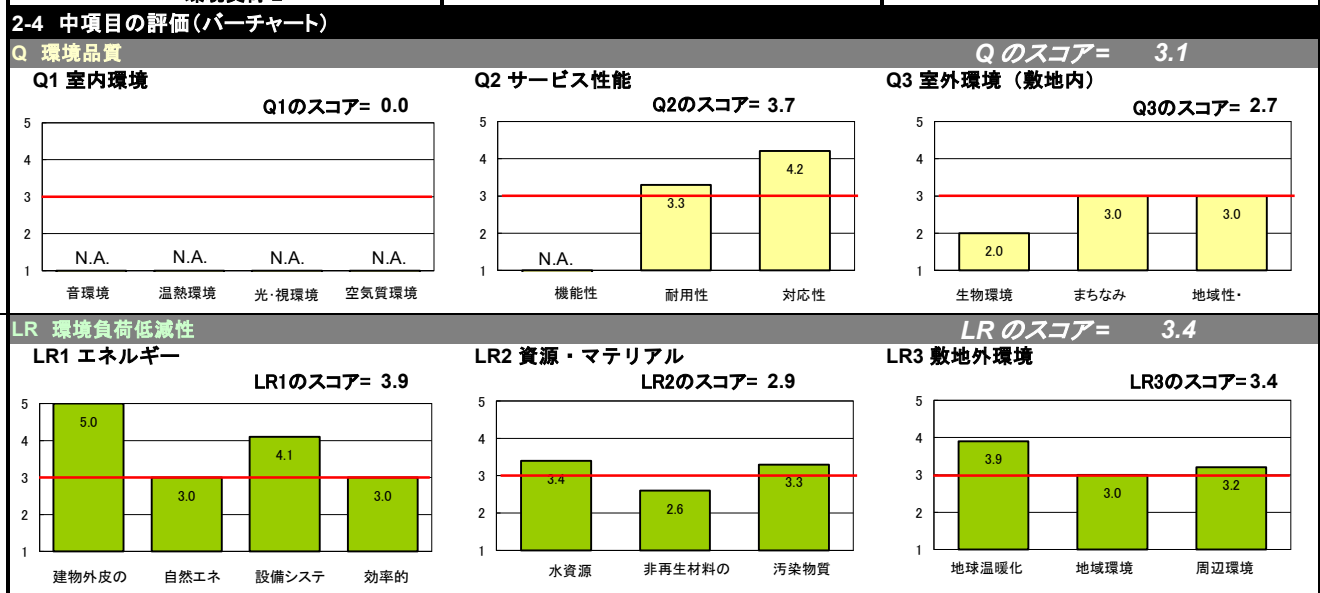
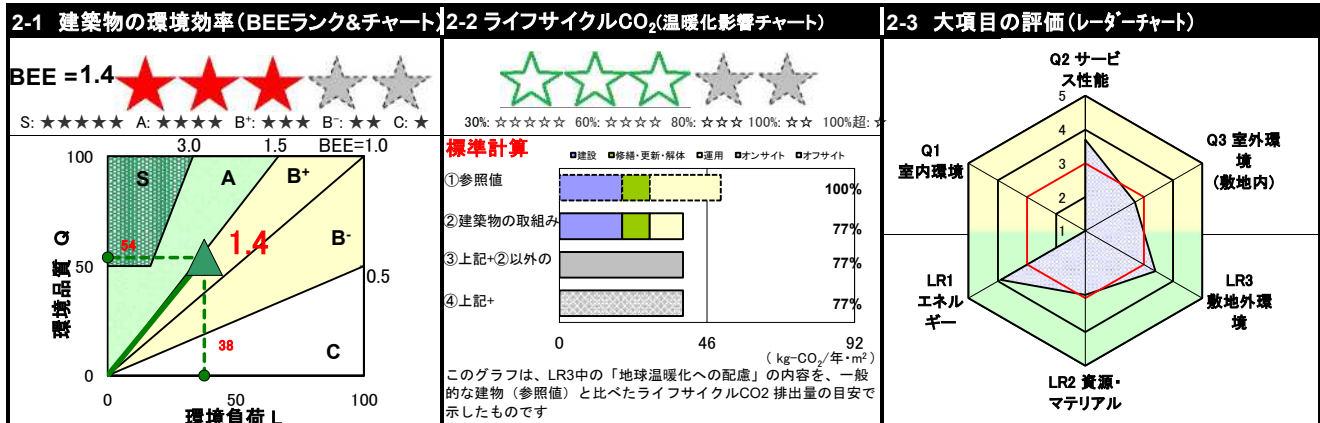
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.8
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④金属断熱サンドイッチパネルの補修必要間隔は30年 ④ビニルクロス貼の更新必要間隔は20年 ④主要な用途上位3種にB以上を使用LEは不使用 ④屋外キュービクルの更新必要間隔は20年	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地づくりを行い常緑ヤマボウシが現存	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI=0.73 ⑨BEI=0.47	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。 ⑫S造のため解体が容易 ⑬発泡剤不使用。(グラスウール断熱材)	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑪ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣等間隔指標RW=0.5	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.9
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	4.0
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲各階高は7.15m	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱(⑲) 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯性に配慮している。	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.8
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地づくりを行い常緑ヤマボウシが現存	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣等間隔指標RW=0.5	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)恩田原・片山22街区物流センター新築工事	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市駿河区片山115番1、115番2	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	139 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,588 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年11月 予定	評価の実施日	2026年2月24日
敷地面積	14,148 m ²	作成者	石井 裕
建築面積	7,881 m ²	確認日	
延床面積	28,031 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果である。		その他 0
Q1 室内環境 対象外である。	Q2 サービス性能 各階高は7.15mである。 1階の壁長さ比率0.051であり空間にゆとりを持たせた。 倉庫の床荷重は25000N/m ² であり、建物の荷重にゆとりを持たせた。	Q3 室外環境(敷地内) 底を設けており、且つ視線を遮らず防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー BPI=0.73	LR2 資源・マテリアル S造のため解体が容易である。 節水コマに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	LR3 敷地外環境 10tトラック用の駐車場と従業員用の駐車場と駐輪場を確保している。 隣等間隔指標RW=0.5

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される